

財務の概要 —2023 年度決算について—

1. 概要

2023 年度は、新病院棟建設や持続的な投資を可能とする財務基盤の強化に向けて、基本金組入前当年度収支差額 1,626 百万円を期初予算に計上しました。不安定な国際情勢や円安進行による物価高騰、新型コロナウイルス感染症関連の公的支援の減少などのマイナス要因が重なる中、医療収支の大幅改善、業務運営の効率化や経費コントロールの取り組みを一層強化した結果、基本金組入前当年度収支差額は前年度比 42 百万円減の 4,075 百万円と、ほぼ前年度水準を確保する決算となりました。

2. 事業活動収支計算書（表 1・2 及びグラフ）

<教育活動収支>

① 教育活動収入

教育活動収入は 62,501 百万円となり、前年度比 319 百万円の減収となりました。

教育活動収入の大半を占める西宮本院の医療収入は、外来患者が減少したものの、外来単価の上昇、病床稼働率の上昇が寄与し、前年度比 2,726 百万円増の 44,736 百万円となりました。

一方で、大口の現物寄付が終了したことに加えて、経常費補助金が前年度比 401 百万円減少、また感染症対策に係る補助金が前年度比 1,974 百万円減少し、大口のマイナス要因が重なったことから、経常費等補助金は前年度比 2,416 百万円減の 3,458 百万円となりました。

② 教育活動支出

教育活動支出は、58,764 百万円となり、前年度比 904 百万円の増加となりました。

人件費は、看護職員の減少などにより職員人件費が減少したことに加え、退職給付関連費用が減少したことにより、前年度比 492 百万円減の 23,594 百万円となりました。

教育研究経費は、奨学費、旅費交通費などが増加したものの、修繕費などが減少したため、前年度比 160 百万円減の 4,870 百万円となりました。

また、医療経費は、診療稼働水準の改善に加えて、薬品費や医療材料費の増加などにより、前年度比 1,696 百万円増の 28,993 百万円となりました。

この結果、医療収支差額は 19,479 百万円と、前年度比 1,103 百万円の大幅な改善となりました。

<教育活動外収支>

教育活動外収支は、有価証券の積み増しなどにより、受取利息・配当金収入が増加したため、前年度比 61 百万円増の 267 百万円となりました。

<特別収支>

開学 50 周年記念事業募金に係る施設設備寄付金などが減少したものの、旧立体駐車場等の解体に伴う資産処分差額 1,152 百万円の減少により、特別収支は前年度比 1,117 百万円増加し 95 百万円となりました。

3. 資金収支計算書（表 3）

資金収支については、収入（資産売却収入含む）が前年度比 3,639 百万円増加したものの、支出（資産運用支出含む）が前年度比 4,360 百万円増加したため、翌年度繰越支払資金（現金預金）は、2022 年度末 14,284 百万円より 270 百万円減少し、14,014 百万円となりました。

4. 貸借対照表（表 4）

2023 年度末の貸借対照表の純資産（資産の部－負債の部）は、大幅な黒字決算を背景に前年度末比 4,075 百万円増の 89,673 百万円となりました。

資産の部は、建物・機器等の減価償却が進んだ一方で、新病院棟建設に伴う建設仮勘定や資金の効率的運用による有価証券等の増加によって、前年度比 2,725 百万円増加し 117,672 百万円となりました。

負債の部は、リース物件の増加により長期未払金が増加したものの、借入金、未払金などが減少した結果、前年度比 1,351 百万円減少し 27,999 百万円となりました。

なお、2023 年度末の総保有資金残高は、前年度比 3,540 百万円増の 41,316 百万円となりました。

5. 主要財務比率の推移（表 5）

表 5 にて財務比率の推移を表しています。比率の意味、主な留意点等を表の次頁に記載しています。

6. キャッシュ・フローの推移（表 6）

「教育研究活動」「施設等整備活動」「財務活動」の活動区分ごとのキャッシュ・フローの推移を表しています。それぞれのキャッシュ・フロー計算書は、他の会計基準とほぼ同様の区分等の手法を採用して作成しています。

以上